

## 雨水浸透施設

### 技術概要

雨水浸透施設とは、敷地内に降った雨水を集めて地下に浸透させる施設で、水路や河川の負担を軽減する役目を果たす他、開発等で地表を覆うことにより起こる地下水・湧き水の枯渇を防止するなど、水環境を守る効果もあり、都市における健全な水循環の保持・創出に資する。

近年、都市の市街化の進展とそれに伴う道路舗装面積等の増大に伴い、各地域における雨水の浸透面積が減少し、雨水の流出量が増大するとともに、短時間に雨水が流出するようになってきている。そこで、雨水の流出量を抑制し、地下水涵養を図るとともに、合流式下水道の越流水による汚濁負荷の削減に資するため、雨水の貯留浸透を推進する必要がでてきている。

### 新都市での導入効果について

新都市建設前の自然の水循環を保全する。

### 導入における課題（対応策）

#### 浸透面の確保

透水性舗装や、緑地面の確保等を行う。

### その他（導入状況・技術開発等動向・将来見込み等）

東京都の小金井市などでは、野川のせせらぎの復活を目的に、透水性舗装等の雨水浸透施設を積極的に設置している。また、八王子ニュータウンのように雨水浸透と併せて地下ダムを設置し、河川の維持用水を確保しようとしている事例などがある。

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成